

栄養豊か、花も楽しめるオクラ

夏を越して晩秋まで果実（莢果）を取り続けることができ、フヨウに似た黄色い花は観賞用としてもめめられ、家庭菜園や庭先、プランター栽培共にお勧めです。アオイに似た花は観賞価値もあり、秋遅くまで咲き続けます。花も実もある重宝な野菜といえます。

独特の粘りがあり、夏のスタミナ補給にうってつけの野菜として知られています。食べ方は刻んで生のままでだけでなく、ゆでたり炒めたり、サラダやてんぷら、みそ漬け、かす漬けにと、使い道が広いのも魅力です。

高温性で昼は25〜30度、夜は20〜23度が適温で、10度以下の低温では生育がまったく停止し、葉が黄変、落葉してしまいます。畑に植えたが一向に伸びず、落葉、枯死するという声がよく聞かれるのは、苗が低温に遭っていたり、植えた畑が寒過ぎたりした場合が多いのです。これを水不足と勘違いして水をやり過ぎると地温がさらに下がり、過湿となり

立ち枯れ病が発生したりして失敗を助長してしまいます。

育て方のポイントは、苗は3号ポリ鉢に、一晩水に浸した種を4〜5粒まき、20度ぐらいに加温して育てるか、市販の苗を買い求め、暖かい場所で再育苗し、十分暖かくなつてから畑に植え出します。最近はずいぶん早くから店頭で苗が並びますが、買い急ぎは禁物、失敗して再び苗を求めなくてはならない状態になってしまいます。

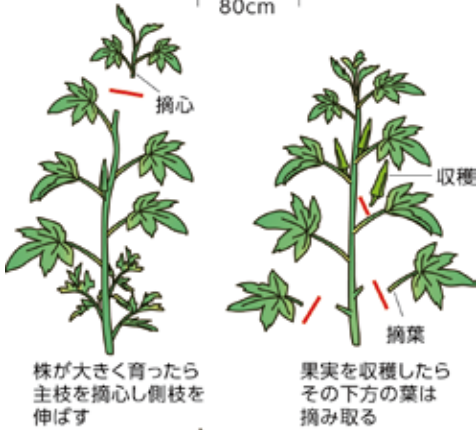
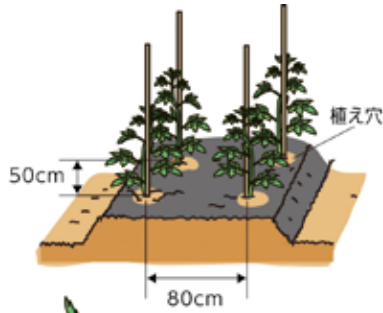
図のように黒色ポリフィルムをマルチし、地温を上げてから植えることをお勧めします。オクラの育ちをよく見ると、初期には枝分かれせず、1株当たりの花

果数は少ないので、それを補い、早期収量を高めるために、畑でもプランターでも、1カ所に2株ずつ植えることを勧めます。前半は葉もあまり込み合わないのので、これでちょうど良いのです。

盛んに育ち枝が伸びだしてきたら、主枝の上の方を摘除し側枝に日を当て、健全に伸びるようにします。半月に1回、1株当たり小さじ1杯ぐらいの化成肥料を追肥します。

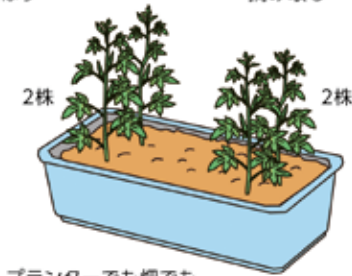
近頃各地で葉を筒状に巻き食害するワタノメイガの発生が見られます。発見次第捕殺するか、適応殺虫剤を散布して防ぎましょう。

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。



株が大きくなり主枝を摘心し側枝を伸ばす

果実を収穫したらその下方の葉は摘み取る



プランターでも畑でも1カ所2株ずつ植える

野菜づくり

Q & A



Q 今年初めてのことでありますが、大根に黒いすじが中心から放射線状に入ります。何が原因ですか？ (3月号お便り)



A 【被害】ほとんど外観的に異常は認められませんが、根部の維管束が黒く黒褐色に変色します。横に切断すると、黒点が根の中央部では放射状、皮層下の部分では輪状に見られます。葉は下葉が黄化することもあります。風雨により葉に傷ができたところから細菌が侵入して、葉に黒い斑点ができ病斑が拡大、更に根に侵入して黒変します。

【原因】土壌水分が多く、排水不良により根の活力が弱くなると被害が拡大します。肥料不足で生育が衰えた時にも発生しやすい傾向があります。

【対策】排水対策を十分に行い、葉や根部に傷をつける害虫の防除に努めましょう。生育中期以降は、肥料切れにならないよう注意し、蜜植を避けて過繁茂にならないようにし、アブラナ科野菜の連作に気をつけましょう。